教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）：理工学部

理工学部では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、理学、工学の各分野で幅広い教養と基礎学力を養うため、化学コース、数理・物理コース、材料科学コース、知能情報コース、クリエイティブ情報コース、電気電子・情報通信コース、機械知能航空コース、社会基盤・環境工学コースごとに、教養教育科目、コース専門入門科目、専門基礎科目、理工学専門共通科目、コース専門横断科目および各コース科目で構成される系統的な教育課程を編成している。

◇理工学科

【化学コース】

化学コースでは、物質化学から生命化学までの、国際水準を満たす高度な専門知識・専門技術を有し、さらに幅広い一般教養と語学力を基にして、地域社会と国際社会の持続的発展を実現するうえで解決すべき諸問題に積極的に取り組むことができる人材の育成を目的として定めている。本コースでは、その教育プログラムを通して、学生が以下の能力を修得することを目指している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

（知識・理解）

1. 幅広い教養を身に付けさせるために、教養教育科目の履修を必修とし、理工学全般の基礎的な学力を修得できるように、教養教育、主として数学、物理、化学の講義からなる専門基礎科目を配置している。
2. 化学の専門性を深化できるように、物理化学、無機化学、有機化学を基盤とし、物質化学から生命化学までの応用化学に関する知識、ならびにそれらの知識を応用する能力を修得するための専門科目を配置し、体系的に履修させることを徹底する。

（思考・判断）

3. データサイエンスを活用して化学に関する諸問題の分析とその解決法を提案できるように、情報科目としてデータサイエンスに関する科目を配置している。
4. 基礎化学と応用化学の課題に対する実践的解決法を提案できるように、基盤科目に対応する演習科目を配置している。

（技能・表現）

5. 化学における基本的な実験技能を習得させるために、「化学理工学実験Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究」などの実験科目を配置し、化学における情報処理の技能を習得させるために、プログラミングに関する科目を配置している。
6. 英語で発表する能力を養わせるために、「科学技術英語」等を配置している。

(関心・意欲・態度)

7. プロジェクトベースラーニング (PBL)科目を通じて、自ら調べた結果を論理的に発表する能力を養わせる。環境・エネルギー・資源への影響を考慮しながら持続的な社会の発展を提案する能力を開発させるために、「ソフトパス理工学序論」等の科目を配置している。
8. 実社会において化学の専門家として活動する際に必要となる素養を身につけさせるために、「技術者倫理」、「社会体験学習」等の科目を配置している。

【数理・物理コース】

数理・物理コースでは、数学及び物理に関する幅広い知識・教養を身につけると同時に自然界の真理探究を通じて自然科学と人類社会との関係を総合的に判断出来る知性、品格さらには国際感覚を身につけた人材の育成を目標としている。そのため、教育研究分野として、物理学分野と数理科学分野を設置し、幅広い基礎知識の修得と数理科学の専門性深化を目指した教育課程を以下の様に編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 1、2年次に、幅広い教養と理工学全般の基礎的な知識と実験・分析方法を修得させることができるように、教養教育科目および、主として数学、物理、化学の講義と基礎実験科目からなる専門基礎科目を配置している。
2. 数理科学、物理学に関する幅広い基礎知識および高度な専門性を体系的に修得させることができるように、コース専門横断科目、さらにより高い専門性を学ぶための数理・物理コース科目を2年次以降に配置している。
3. 数理科学分野の専門性を深化できるように、微分方程式、線形代数学、複素解析学を基礎に、応用解析学、応用確率統計学などを体系的に履修させることを徹底している。
4. 物理学分野の専門性を深化できるように、電磁気学、量子力学、統計力学を基礎に、固体物理学、磁性物理学、光学などを体系的に履修させることを徹底している。

(思考・判断)

5. 数理科学、物理学の課題に対する理解力・判断力・実践的解決法を確かな専門性に基づき修得させることができるように「物理・材料理工学実験Ⅰ・Ⅱ」、「社会体験学習」、「特別研修」、「工場見学」、「卒業研究」などの実験・研修科目を3年次以降に配置している。

(技能・表現)

6. 専門科目で修得した知識や技能を活かす応用力や創造力、情報処理能力を修得させるために「プログラミング学」、「物理学実験」、「物理数学演習Ⅰ・Ⅱ」、「物理・材料理工学実験Ⅰ・Ⅱ」などの実験・演習科目や教養教育における情報科目を配置している。
7. 科学技術英語の読解力と文章力、及び、英語による表現法を修得させることができるよう

に、科学英語科目を体系的に履修させることを徹底している。

(関心・意欲・態度)

8. 分野横断的な思考力および俯瞰的研究能力を身につけさせるため、コース専門入門科目や「ソフトパス理工学序論」、「ソフトパス理工学実践」などのソフトパス理工学指定科目を配置するとともに、他コース開講科目をコース専門横断科目として履修可能としている。
9. 主体性・協働性を身につけさせるとともに、社会における数理科学および物理科学の役割ならびに技術者・研究者が負っている社会的責任について深く理解させるために、「ソフトパス理工学実践」などのPBL科目及び「技術者倫理」「原子力工学」などを配置している。

【材料科学コース】

材料科学コースでは、材料工学および物質科学に関する幅広い知識と高い専門性のスキルを身につけ、科学技術の創成、人の暮らしや産業の発展を担うことができる人材の育成を目標としている。そのため、教育研究分野として、金属生産工学分野と機能材料理工学分野を設置し、幅広い基礎知識の修得と材料工学及び物質科学の専門性の深化を目指した教育課程を以下の様に編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 1、2年次に、一般教養に関する教養教育科目を配置している。
2. 理工学全般の基礎的な知識と実験・分析方法を修得させることができるように、1、2年次に、主に数学、物理、化学の講義と基礎実験科目からなる専門基礎科目を配置している。
3. 材料工学および物質科学に関する幅広い基礎知識および高度な専門性を体系的に修得させることができるように、コース専門横断科目、さらにより高い専門性を学ぶための材料科学コース科目を2年次以降に配置している。
4. 金属生産工学分野の専門性を深化できるように、材料物理化学、材料組織学、金属構造材料学などの金属とセラミックスの物理・化学的性質を基礎に、金属工学、材料精製、加工プロセス工学などを体系的に履修させることを徹底している。
5. 機能材料理工学分野の専門性を深化できるように、電磁気学、固体物理学、半導体理工学などを基礎に、新電子材料、生体材料、計測技術、材料設計・解析などを体系的に履修させることを徹底している。
6. 課題への理解力と解決法を身につけさせるために、1年次にPBLの手法を取り入れた「ソフトパス理工学実践」を配置している。
7. 持続可能な社会を実現するソフトパスの概念を身につけさせるために、1年次に「ソフトパス理工学序論」を配置している。また、材料科学コース科目にソフトパス指定科目を設置している。

(思考・判断)

8. 材料工学および物質科学分野の課題に対する実践的解決法を修得させることができるように、3年次以降に「物理・材料理工学実験Ⅰ・Ⅱ」、「社会体験学習」、「工場見学」、「卒業研究」などの実験・研修科目を配置している。

(技能・表現)

9. 専門科目で学んだ知識を活用する実践能力や実験等で得られたデータを適切に処理・活用する技能を修得させることができるように、「物理学実験」、「物理・材料理工学実験Ⅰ・Ⅱ」、「プログラミング学」を配置している。

10. 科学技術英語の読解力と文章力、及び、英語による表現法を修得させることができるように、科学英語科目を体系的に履修することを徹底している。

11. 情報リテラシーを身に付けるために、1年次に「情報基礎A」、「数理・データサイエンス基礎および演習」、「AI基礎および演習」を配置している。

(関心・意欲・態度)

12. 専門科目で修得した知識や技能を材料開発や評価技術開発へ生かす応用力と創造力を育成するため、「特別研修」、「特別講義Ⅰ・Ⅱ」、「工場見学」を3年次以降に配置している。

13. 主体性および共同性を身につけさせるために、1年次にPBLの手法を取り入れた「ソフトパス理工学実践(PBL)」を配置している。

14. 分野横断的な思考力および俯瞰的研究能力を身につけさせるため、コース専門横断科目および他コース開講科目を選択科目として履修可能としている。

15. 社会における材料工学および物質科学の役割、及び、技術者・研究者が負っている社会的責任について深く理解させるため、「ソフトパス理工学序論」、「技術者倫理」を配置している。また、材料科学コース科目にソフトパス指定科目を設置している。

【知能情報コース】

知能情報コースでは、豊かな生活環境を支えるための高度で多様な情報システムを構築できる人材の育成を目標としている。このため、コンピュータの基礎理論から知能情報工学、メディア情報工学に至るまでの広範な教育課程を以下のように編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 幅広い教養と知能情報工学・メディア情報工学・デザイン工学に関する基礎的な専門知識を身につけさせるため、教養教育科目や数学・理科に関する専門基礎科目を1、2年次に多く配置し、2、3年次からは、情報学の基礎である離散数学やデータ構造に関する知識、及び、情報学の各分野に応じた基礎的な専門知識を身につけさせるため、専門科目において基礎から応用までの知識を系統的に修得できるようにしている。

(思考・判断)

2. 問題の本質をとらえる課題理解力、基礎的な課題に対して解決法を考える能力、及び問題解決のための具体的な計画立案・遂行能力を身につけさせるため、専門科目としてプログラミングに関する基礎的な演習科目や「数理計画法」などの講義科目を2、3年次に、「卒業研究」を4年時に配置している。
3. 専門分野等の知識を活用してデータを分析することができ、論理的な評価や考察を行える能力と確かな専門性を身につけさせるため、専門科目として「ネットワーク実験」や「AIデータサイエンス実践演習Ⅰ」などの演習・実験科目、「データ解析」や「データベース」などの講義科目を2～4年次で履修できるように配置している。

(技能・表現)

4. 知能・メディア情報システムを構成するハードウェアやソフトウェアを開発するために必要な情報リテラシーを含む基礎的能力を幅広く身につけさせるため、演習科目を2年次～4年次前期に系統的に履修できるように配置している。また、知能情報工学・メディア情報工学・デザイン工学に関する確かな専門性・技能を学ぶための科目として、「ロボティクス」、「人工知能」、「コンピュータグラフィックス」、「メディアシステム」、「コンパイラ」、「情報デザインⅡ」などの講義科目を3年次で履修できるように配置している。
5. 自らの思考・判断のプロセスや結果を論理的に表現する文章能力、協創的課題解決のために他人に説明するコミュニケーション能力と協働性を身につけさせるため、「ソフトパス理工学実践」や「システム創成プロジェクト」などのPBL科目や「卒業研究」を配置している。
6. 知能情報工学及びその関連分野に関する基礎的な英語能力を身につけさせるため、教養教育科目の外国語（英語、英語以外）や専門科目の「科学技術英語（入門）」、「科学技術英語（情報）」などを配置している。

(関心・意欲・態度)

7. 自然科学、地域課題、及び知能情報工学等の動向や進展に関心を持ち、主体性をもって学ぶための基礎的な能力を身につけさせるため、教養教育科目の履修を必修としている。
8. 社会における知能情報システムの役割を理解し、技術者として社会に貢献する基礎的な能力を身につけさせるため、理工学専門共通科目のソフトパス理工学序論を必修とし、専門科目として情報学特別講義などの講義科目を配置している。

【クリエイティブ情報コース】

クリエイティブ情報コースでは、豊かな生活環境を支えるための高度で多様な情報システムを構築できる人材の育成を目標としている。このため、コンピュータの基礎理論からメディア情報工学・知能情報工学・デザイン工学に至るまでの広範な教育課程を以下のように編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイ

ドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 幅広い教養とメディア情報工学・知能情報工学・デザイン工学に関する基礎的な専門知識を身につけさせるため、教養教育科目や数学・理科に関する専門基礎科目を1、2年次に多く配置し、2、3年次からは、情報学の基礎である離散数学やデータ構造に関する知識、及び情報学の各分野に応じた基礎的な専門知識を身につけさせるため、専門科目において基礎から応用までの知識を系統的に修得できるようにしている。

(思考・判断)

2. 問題の本質をとらえる課題理解力、基礎的な課題に対して解決法を考える能力、及び問題解決のための具体的な計画立案・遂行能力を身につけさせるため、専門科目としてプログラミングに関する基礎的な演習科目や「コンピュータグラフィックス」などの講義科目を2、3年次に、「卒業研究」を4年次に配置している。
3. 専門分野等の知識を活用してデータを分析することができ、論理的な評価や考察を行える能力と確かな専門性を身につけさせるため、専門科目として「ネットワーク実験」や「AI・データサイエンス実践演習Ⅰ」などの演習・実験科目、「データ解析」や「データベース」などの講義科目を2～4年次で履修できるように配置している。

(技能・表現)

4. 情報を創造するためのソフトウェア、使いやすいユーザインタフェース、人にやさしいデジタルコンテンツなどを開発するために必要な情報リテラシーを含む基礎的能力を幅広く身につけさせるため、演習科目を2、3年次に系統的に履修できるように配置している。また、メディア情報工学・知能情報工学・デザイン工学に関する確かな専門性・技能を学ぶための科目として、「情報デザインⅡ」、「創造デザインⅡ」、「コンピュータグラフィックス」、「ヒューマンインタフェース」、「メディアシステム」、「ロボティクス」、「人工知能」などの講義科目を3年次で履修できるように配置している。
5. 自らの思考・判断のプロセスや結果を論理的に表現する文章能力、協創的課題解決のために他人に説明するコミュニケーション能力と協働性を身につけさせるため、「ソフトパス理工学実践」や「システム創成プロジェクト」などのPBL科目や「卒業研究」を配置している。
6. 情報の創造及びその関連分野に関する基礎的な英語能力を身につけさせるため、教養教育科目の外国語(英語、英語以外)や専門科目の「科学技術英語(入門)」、「科学技術英語(情報)」などを配置している。

(関心・意欲・態度)

7. 自然科学、地域課題、及び情報の創造等の動向や進展に関心を持ち、主体性をもって学ぶための基礎的な能力を身につけさせるために、教養教育科目の履修を必修としている。
8. 社会における情報の創造の役割を理解し、技術者として社会に貢献する基礎的な能力を身につけさせるため、理工学専門共通科目の「ソフトパス理工学序論」を必修とし、専門科目

として「情報学特別講義」などの講義科目を配置している。

【電気電子・情報通信コース】

電気電子・情報通信コースでは、地球環境や人の暮らしなど持続可能な社会に高い関心を持ちながら、効率化とクリーンエネルギー化が進む電気エネルギー技術、材料や微細化により高度化が進む電子デバイス技術、社会の隅々まで張り巡らされる情報通信技術の基礎を修得し、これらの技術の発展に貢献できる人材を育成する教育研究を行う。電気電子・情報通信コースでは、コースの学位授与の方針を実現するために、以下の通り、カリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 科学技術が人間社会や自然環境に及ぼす影響を多面的に考えることができる素養を育み、豊かな人格形成に資するために教養教育科目の履修を義務付けている。さまざまな専門分野の根底を形成している普遍的な数理や、自然科学の基礎的知識を修得させるために、低年次に数学、物理学、化学に関する専門基礎科目を配置している。

専門的となるコース科目では、電気回路、電磁気学、電子回路、計測・制御に関する科目群を基幹の必修科目としており、電気電子・情報通信の分野を学ぶための基礎を築くことができるようにしている。また、数学と電気工学の橋渡しとして電気数学を設け、学び始めでつまづかないように配慮した構成としている。

3年次からは情報通信分野、電子デバイス分野、電気エネルギー分野の3分野において、より深く専門化した科目を用意し、難易度や前提となる予備知識に応じて、系統的に学ぶことができるように科目を配置している。

(思考・判断)

2. 講義で学んだ専門知識をベースとして、実社会と結びつけて課題を発見することができ、柔軟な思考により問題解決への道を探り創造的に応用することができる人材を育成するために、低年次には「ソフトパス理工学実践」、高年次には「電気電子・情報通信工学専門研修」、「電気電子・情報通信工学先端課題実習」、「卒業研究」を配置している。これらの科目ではPBLの手法が取り入れられている。

(技能・表現)

3. デジタル社会の基礎的な素養としての情報リテラシーの習得や数理・データサイエンス・AIを電気電子・情報通信分野に応用することができるようにするため、「情報基礎A・B」、「数理・データサイエンス基礎および演習」、「AI基礎および演習」を1年次に配置している。
4. 電気電子・情報通信に関する機器の動作原理や操作方法を理解し、活用することができるようにするため、「電気電子・情報通信工学基礎実験」、「電気電子・情報通信工学応用実験」、

「プログラム言語及び演習」、「組込ソフトウェア実習」、「組込ハードウェア実習」、「電気設計製図」の実習科目を2－4年次に配置している。これらの実験・実習により、ハードウェアからソフトウェア・情報通信技術まで幅広く体験的な学修をすることができるようにしている。

5. 4年次の「卒業研究」では自ら調べさせ、能動的に調査・実験・研究を行わせる。成果や結果を発表することや、レポートや論文にまとめる作業により、第三者に論理的に説明する表現能力を醸成させる。また、グローバル社会で活躍するための英語能力を身につけさせるために、「科学技術英語（入門）」、「科学英語技術（電気電子・情報通信）」、「国際研修」を配置している。

（関心・意欲・態度）

6. 科学技術の進展に高い関心を持ち、継続的・主体的に学修することができるように、コース内の教員の研究を紹介する「電気電子・情報通信工学特別講義」や、会社経営者や外部研究者を招聘する「電気電子・情報通信工学専門研修」を開講している。さらに、インターンシップ等を行う「社会体験学習」も設置している。
7. 社会における役割を理解し、環境や安全に対する倫理観を身につけさせるために、学部内共通科目として、1年次に実施する「ソフトパス理工学序論」で基礎的な教育を行い、高年次には「技術者倫理」を配置している。また、企業や自治体における電気電子・情報通信工学の関わりあいを学ぶために「社会体験学習」や「工業経営管理論」等の科目も配置している。

【機械知能航空コース】

機械知能航空コースでは、多様な地域産業を支え、機械の知能化や航空機開発などのより高い専門性が要求される産業分野で活躍できる人材の育成を目標としている。このため、機械工学の基礎からロボット工学や航空宇宙工学などの先端的な領域まで、幅広い教育課程を編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

（知識・理解）

1. 豊かな教養と理工学に関する幅広い基礎知識を身につけさせるため、文化、社会、自然、環境等に関する教養教育科目、数学や物理などの理工学に関する基盤的な基礎科目を1、2年次に配置している。

機械システム分野、知能ロボティクス分野、航空宇宙分野などの機械工学に関する基礎的な知識を身につけさせるため、各分野に関するコース内専門科目を配置し、基礎から応用までの知識を系統的に修得できるようにしている。

（思考・判断）

2. 豊かな教養と専門分野等の知識に基づいて論理的に思考し、問題解決のための方策を提案できる能力を身につけさせるため、1年次にPBL科目の「ソフトパス理工学実践」を配置し、高年次では「機械リサーチ研修」や「卒業研究」などの科目を配置している。

(技能・表現)

3. 機械工学分野の機器及び情報関連機器を活用し、機械の知能化等によって所望の機能を実現するための基礎的な能力を身につけさせるため、1年次に教養科目における情報科目、2、3年次に製図・CAD、プログラミングに関する科目を配置している。

4. 日本語と英語による論理的な表現力とコミュニケーション能力を身につけさせるため、1年次と4年次に機械工学分野の英語基礎から学术论文の読解まで幅広く取り組ませる科学技術英語を配置している。また、論理的な表現力とコミュニケーション能力を身につけるため、「機械リサーチ研修」と「卒業研究」を配置している。

(関心・意欲・態度)

5. 機械工学分野の進展に関心を持たせるため、1年次に「機械知能航空入門」を配置して機械工学分野の概要を把握させる。専門的知識を活用しながら主体的に学習する能力を身につけさせるため、高年次では機械技術者のキャリアデザインや社会体験に関する科目を配置し、卒業研究では専門知識を活用しながら主体的に取り組む能力を身につけさせる。

6. 機械工学に関する知識や技能を生かして、持続可能な社会に貢献する意欲と態度を身につけさせるため、1、2年次に文化、社会、自然、環境等の教養教育科目を配置し、3年次には「技術者倫理」や「社会体験学習」を配置している。

【社会基盤・環境工学コース】

社会基盤・環境コースでは「安全・安心な社会の構築」と「人と環境に優しい持続可能な社会の創出」を教育理念に、社会基盤・環境工学に関する広範な専門基礎学力を有し、建設工学、環境工学、防災工学の基礎と幅広い教養を身につけ、問題発見・解決能力を持ち、次世代の科学技術の創生と発展を担うことができる人材およびそれらの専門性を高めながら、社会基盤・環境工学分野を支え、地域復興のために貢献できる人材、より高い専門性が求められる同分野で活躍できる人材を育成することを目指している。

このような観点から、社会基盤・環境工学コースでは、コースの学位授与の方針を実現するために、以下の通りカリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 数学・自然科学および情報技術に関する知識を修得させ、多面的な視点から考えることのできる能力を修得させることができるように「基礎数学」、「微分積分学Ⅰ」などの専門基礎科目を必修としている。

2. 社会基盤・環境工学の建設工学、環境工学、防災工学の各専門技術に関する知識、ならびにその知識を応用する能力を修得させることができるように専門科目を配置している。

(思考・判断)

3. 問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考え、問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を修得させることができるように「ソフトパス理工学実践」、「測量学実習Ⅰ、Ⅱ」、「卒業研究」等を必修としている。

4. 自ら課題を発見・解決しようとする問題意識をもち、自主的・持続的に学修を行う能力を修得させることができるように PBL 科目である「ソフトパス理工学実践」、実習系科目である「測量学実習Ⅰ、Ⅱ」、「卒業研究」等を必修としている。

(技能・表現)

5. 十分な語学力を身に付け、自国の文化・社会を学ぶとともに世界の多様な価値観を理解し、国際的に通用するコミュニケーション能力を修得させることができるように豊かな教養を育む教養科目、および語学科目、専門教育科目の演習系科目の「科学技術英語(入門)」、「科学技術英語(社会基盤・環境)」を必修としている。

6. 種々の工学的な課題に対して、論理的・客観的な意見が述べられるような文章作成能力とプレゼンテーション能力を修得させることができるように PBL 科目である「ソフトパス理工学実践」、演習系科目である、「卒業研究」等を必修としている。

7. 他者と協力してチームで仕事をする能力を修得させることができるように PBL 科目である「ソフトパス理工学実践」、「測量学実習Ⅰ」を必修としている。

(関心・意欲・態度)

8. 地球環境・地域環境について深く理解し、環境と調和した持続可能な循環型社会の構築のための技術を多面的に考える能力と素養を修得させることができるように教養科目の環境科目、および「環境工学」等の専門教育科目の体系的な履修を徹底させる。

9. 科学技術が社会や自然におよぼす影響や効果を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識できるように「技術者倫理」を必修としている。

成績評価ガイドライン：理工学部

1. 「授業の目的」の設定方法

- ・各コースで策定した「学位授与の方針」との関係をはっきりと示して授業の目的を設定し、具体的に記述する。

2. 「到達目標」の設定方法

- ・各コースで策定した「学位授与の方針」との関係をはっきりと示し、具体的にどの項目と対応しているかを示す。
- ・本授業を通じて学生が修得・理解し、活用できる知識・技能・能力等の学修成果を具体的に記述する。
- ・基礎的な基幹科目では、今後の専門的な内容の学修に必要とされる知識を確実に身につけられる到達目標を設定することが望ましい。
- ・発展的な専門科目では、学生の向学心を十分に満たす高度な内容を含めた到達目標を設定することが望ましい。
- ・連続する科目や関連性の高い科目では、授業担当者間で事前に話し合い、接続性や連続性を考慮して到達目標を設定することが望ましい。

3. 「成績評価の方法と基準」の設定方法

○成績評価の方法

- ・講義科目では、最終試験、レスポンスカードや小テスト、中間試験、レポート等を活用して、複数の方法・観点で評価を行うことが望ましい。
- ・演習科目では、授業中の成果、取り組み態度、コミュニケーション、授業内外の成果物等を含めて総合的に評価することが望ましい。
- ・実験および実習科目では、必ずレポートを成績評価法に取り入れる。

○成績評価の基準

- ・到達目標の達成度を基準とした絶対評価とする。
- ・到達度が学生に理解できるように、具体的な問題・課題を例に挙げるなどして説明する。
- ・成績評価の比率に極端な偏りがでないように定期的に見直しを行う。